

委20 - 2

宇宙探査に係る国際ワークショップの報告

平成19年6月13日
宇宙航空研究開発機構
月惑星探査推進グループ
プログラムディレクタ
川口 淳一郎

1. 報告事項

「第3回イタリア宇宙機関(ASI)/欧州宇宙機関(ESA)共催 持続的宇宙探査のための国際協力ワークショップ」の参加結果を報告する。

2. 開催概要

- (1)日程:平成19年5月28日(月)~6月1日(金)
- (2)場所:イタリア共和国トスカーナ州 Abbazia di Spineto
- (3)出席:総数約60名(国際協働の共通認識文書に合意した14機関*及びスイス、スペイン。また宇宙空間研究委員会(COSPAR)、国際月探査WG(ILEWG)、国際火星探査WG(IMEWG)等関連団体代表の参加あり。)
JAXA から当グループ川口プログラムディレクタ、松本研究開発室長等6名。

* ASI(イタリア宇宙機関)、BNSC(英国国立宇宙センター)、CNES(フランス国立宇宙研究センター)、CNSA(中国、国家航天局)、CSA(カナダ宇宙庁)、CSIRO(オーストラリア連邦科学産業研究機構)、DLR(ドイツ航空宇宙センター)、ESA(欧州宇宙機関)、ISRO(インド宇宙研究機関)、JAXA(宇宙航空研究開発機構)、KARI(韓国航空宇宙研究所)、NASA(米航空宇宙局)、NSAU(ウクライナ国立宇宙機関)、Roscosmos(ロシア連邦宇宙局)

3. ワークショップ結果概要

- (1) SECT(Space Exploration Coordination Tool) -ワーキンググループ(WG)
5月28、29日に、全体会合に先がけて SECT-WG 開催され、国際協働による宇宙探査活動のために共有すべきツール(手段)についての議論が行われた。各機関の宇宙探査に対する関心、能力、計画の3つのデータベースの構築を行うことで合意がなされた。また、データベースの使い方(手法)については、全体会合での議論に委ねられた。
- (2) 全体会合
5月30日~6月1日に開催。Bignami 総裁(ASI)及び孫局長(CNSA)のキーノートスピーチに続き、共同議長である Di Pippo 宇宙観測部長(ASI)及び Sacotte 探査局長(ESA)がこれまでの成果や今後への期待を述べた。

議事内容は以下のとおり。

各機関による宇宙探査活動の状況や今後の計画についての概要報告、「国際協働の共通認識文書」の公開状況報告など。

ESA の提案により、メンバーシップや事務局の設置など Terms of Reference (ToR: 探査協働グループの目的や指針を示した会則)の作成作業が行われた。ToR のたたき台が提示され各機関からのコメントを反映しドラフト版が策定された。最終合意版は下記に示すスケジュールにより策定されることとなった。

4. 今後の予定

- (1) 次回のワークショップは、DLR/ESA のホストにより、11月6、7日にドイツ、ベルリンで開催予定。それまでに、以下の作業を行うことが合意された。
 - ・ 6月中旬までに ToR ドラフト版を事務局で整理し、追加コメントと議論の展開をメール及び電話会議で実施。
 - ・ 7月末までに ToR 策定予定。
- (2) 次回ベルリンワークショップにおける議題案がいくつか提案された。(主な議題は以下のとおり。)今後調整される見通し。
 - ・ 探査協働グループの協働計画・作業計画
 - ・ 国際調整ツールワーキンググループ
 - ・ 事務局の将来機能
 - ・ 小惑星ワーキンググループの設置
- (3)カナダホストによるワークショップを来年4月ごろ開催する予定である旨が CSA から述べられた。

5. 所感:

京都で合意した共通認識文書について冒頭各機関から、これを有意義な成果として今後の国際探査活動に対するより良い指標となることが期待される等、賞賛の発言があった。今後、共通認識文書の理念を適切に反映した ToR が策定され、協働計画の議論に踏み込むことが期待される。

6. その他:国際火星探査ワーキンググループ(IMEWG)の会合が5月29日(水)に同地で開催され ESA、JAXA、NASA 等 8 機関から火星探査計画、研究計画などが紹介された。

以上